新冠にまつわるお話しを集めた

新冠百話

第九十五話
「苫小牧市長と苫小牧名誉市民になった田中正太郎」
（要約文）

苫小牧市民文化会館ロビーに、苫小牧名誉市民の称号を贈られた田中正太郎の胸像がある。その胸像の説明文には「田中正太郎先生は、明治十八年日高新冠村に生まれ、明治二十六年苫小牧市に定住す。…以下略」とある。

この人物の父は滋賀県から北海道に渡って来た田中吉太郎といった。当時は新冠高江村戸長役場職員として席を置きつつ、イナゴによる畑凶除やアイヌ民族の世話役を担当していた。また、副業として新冠川のサケマス漁業も営んでいた。その後、官職を辞して現在の高江地区の辺りに居住し、農業や漁業に従事する。しかし、事業に失敗しさらには家屋焼失の災難に遭って、明治二十二年に新冠高江を後にすることとなった。田中家は道内各所を転々としながら、明治二十六年に苫小牧に落ち着き永住することとなる。

吉太郎の長男正太郎は、明治十八年に高江村で誕生した。正太郎が六歳の時に新冠を離れたわけだが、この時のことを正太郎は、「私は馬車馬の鞍にくくりつけられ、義経の都落ちのような気持ちで新冠を発った」と述懐している。苫小牧に落ち着いたころ、正太郎は十歳であったが飛び級で小学校を卒業する。その後、勉学に打ち込んで北海道師範学校に入学、五年間の勉学を経て苫小牧の小学校の教員として赴任、大正七年に苫小牧東小学校長となった。

昭和二十二年に苫小牧町長に当選、翌二十三年には市制が施かれ、初代苫小牧市長となった。昭和三十八年に市長を退職したが、その後も数々の公職を歴任したことから苫小牧名誉市民の称号を与えられ、胸像が建立されるまでに至った。新冠村生まれの市長として、戦後の市復興に多大な貢献をしたことは言うまでもない。



田中　正太郎
（『新冠町史』より）

発行・編集　新冠町企画課まちづくりグループ広報統計係
発行日　令和8年11月27日

住所　〒059-2492　北海道新冠郡新冠町字北星町3番地の2
電話　0146・47・2111　FAX　0146・47・2600

感震ブレーカーをご存じですか？

地震による火災の過半数は、電気が原因という事実。

揺れた瞬間　電気を止めて　守る命
備えて安心　感震ブレーカー　火災ゼロへ

感震ブレーカーを取り付けて、電気火災事故から家庭・地域社会を守りましょう。　（消防署新冠支署）

火災・救急出動状況　（）かっこ内は前年同期			
区　分	火災件数	救急件数	災害出動件数
10月	0件（0件）	24件（24件）	0件（4件）
8年1～10月	4件（3件）	293件（252件）	17件（12件）
交通事故発生状況　（）かっこ内は前年同期			
区　分	発生件数	死　者	傷　者
10月	0件（0件）	0人（0人）	0人（0人）
8年1～10月	2件（5件）	0人（0人）	2人（6人）

人のうごき

（令和8年10月末現在）

人　口	4,893人	（前月比　△　7人）
男	2,508人	（前月比　△　3人）
女	2,385人	（前月比　△　4人）
世　帯	2,832世帯	（前月比　△　3世帯）

戸籍の窓

10月6日～11月5日までの届出分（敬称略）

●おくやみ申し上げます

畠山シン子	101歳	万　世
種田　薫	83歳	東　町
藤原　秀國	94歳	古　岸
石郷岡フジ子	84歳	大　富
三國富美子	88歳	中央町
前川原栄吉	75歳	共　栄

●お問い合わせ先
町民生活課町民生活グループ住民係
☎ 0146・47・2112

マイナ免許証のマイナンバーカードを更新する方へ

『マイナ免許証』を持っている方のカード更新は、**オンライン申請に限り**『マイナ免許証』が引き継がれます。郵送や証明写真機による申請では引き継がれませんのでご注意を。

●お問い合わせ先
マイナンバー総合フリーダイヤル
☎ 0120・95・0178